

# 校内研修における取組

刈羽村立刈羽小学校

## 1 研究主題

**自立した学びができる子どもを目指して（3年次）**  
～個の学びと仲間とのかかわりを通して～

## 2 これまでの研修の成果と課題から

「自立した学び」をテーマにした校内研修は今年度で3年目に入る。授業研究では、児童が自分なりの目的や課題をもち、友達とのかかわりの中で学びを深めていくための手立てを盛り込んだ授業が行われてきた。教師一人一人の授業の工夫が見られ、児童の話す、聞く姿勢や意欲面での成果が見られた。しかし、「個の学び」と「仲間とのかかわり」（＝自立と共生）という2つの観点から、児童の具体的な変化や成長を見取るところが弱く、今後の課題となった。そこで、今年度は2つの観点から、どのような児童の変容を見取ることができ、評価をしっかりと行うことで成果へと結びつけられる研修としていく。

## 3 本校の目指す児童の姿

### （1）自立した学びとは（刈羽小学校としての定義）

意欲をもち、自ら課題を見付け、解決方法や表現方法を工夫し、仲間とのかかわりの中で学びの質を高めていく姿

### （2）学年部ごとの目指す児童の姿

	個の学び	仲間とのかかわり
高学年	自分なりの活動目的をもち、様々な解決方法で追求し、自分の考えを言葉や図、具体物などで相手に伝わるように工夫して表現する姿	仲間とのかかわりの中で、互いの良さを認め合い、自分の考えを伝え合い、集団としてともに学んでいく姿
中学年	自分が「～したい」という気持ちをもち、自分の考えが相手に伝わるように、学んだことを活かして表現する姿	進んで聞いたり教えたりして仲間とかかわり、友達の話に反応したり、友達の考えに対して自分の意見を言ったりする姿
低学年	自分のしたいことを選んだり決めたりし、自分の考えが相手に伝わるように生き生きと表現する姿	進んで仲間とかかわり、相手の話を聞いたり、自分の考えを伝えたりする姿

## 4 研究の内容と方法

### （1）個人の研修と実践

#### ①個人の研修

- ・個人の研修計画に「私の授業改善重点目標」を示し、日々の授業改善に努める。長期休業中に、職員全員で振り返りを行う。
- ・自立した子どもを育てるために取り組んでいくこと、学力向上のために取り組んでいくことを学級経営案や自己申告シートに盛り込む。

#### ②振り返りと情報交換

成果と課題をまとめ、次につながる方向を決めていく。  
各学期ごとに学年部で振り返り、情報交換等をして授業力向上に役立てる。

### （2）全学級による授業公開と協議会の実施

- ・全学級の職員が授業を公開する。（全体の公開授業をしない職員も、学年部の公開授業をする。）
- ・指導案は全員に配付する。

- ・単元の構想を立てる際、「個の学び」と「仲間とのかかわり」を明確にする。
- ・授業公開では、「個の学び」と「仲間とのかかわり」のどちらかに焦点を絞る。
- ・本時の中に、児童が自らの学びを確認できるようなまとめと振り返りを必ず入れる。
- ・研究主題から設定した、学年部の目指す児童の姿を目指した授業作りをする。
- ・自立した学びを目指した授業作りの実践

- 「身に付けさせたい力」を明確化した指導案作り（わたしの授業改善）
- 受動的な学びから能動的な学び（アクティブラーニング）を意識した授業作り（児童の学ぶ意欲や主体性を高める工夫）
- 「個の学び」と「仲間とのかかわり」自分の考えを伝え合い、共に学びの質を高めていく学習活動の工夫

- ・学年部で、授業後に協議会を設ける。
- ・授業記録、記録写真（板書を含める）を残す。

### （3）学力向上の取組を取り入れた日常の学習活動の実践

- ①学習規律の徹底…「刈羽学びの五か条」の取組（学力向上部より提案「話を聞く」重視）
- ②基礎基本の定着
  - ・朝学習の計画的な取組
  - ・個別指導の時間（にこにこ教室）の実施…コミュニティースクール
  - ・家庭学習の充実（実態に応じて、自分で考え、自分で取り組む自学ノート作り）
  - ・読書指導の励行…語彙力・表現力・想像力を育てる。家庭と連携する。
  - ・国語辞典の活用…辞書の引き方、活用の仕方を学ぶ。
- ③ Web 配信集計システムの実施と結果分析をふまえた日々の授業の取組
- ④刈羽村教育委員会指導主事による授業参観

### （4）キャリア教育を意識した授業の実践

- ①各教科の基礎基本の学力の定着
- ②学び方を学ぶ
  - ・ドリルの進め方、調べ学習で分からなかった時の辞書の使い方などのスキル
- ③各行事や授業の見通しをもった取組と振り返り、それを生かした次の活動・授業作り

参考：「刈羽っ子プラン」全ての教育活動で取り組む。小学校では、将来の自分を築く進路の探索・選択にかかる基礎的な能力・態度を育てていくことが大切。そのために、自分の考えや思いをしっかりと、相手に分かりやすく伝える資質や能力を育てていくことを重視した実践を進めていくようにする。

#### 【目指す児童生徒の姿4つの観点】

- ①自立する力
- ②人間関係をつくる力
- ③社会を生きる力
- ④将来を見通す力

## 5 授業研究の実施

### <全校体制>

〔取組事項〕

- ①個人の研修と実践・振り返り
  - 「自立した学びができる子ども」に向けて、児童の実態や課題を出し合う。個人で取り組む課題を決め、実践と振り返りをする。
- ②授業公開と協議会の実施
  - ・自立した学びを目指した授業づくりの実践を行う。
  - ・学年部で協議会を開き、授業後はレポートを作成する。
  - ・個々の実践を積み重ねられるよう、授業での成果と今後の課題を明確にする。

### ③学力向上の取組と振り返り

- ・みんなで学ぶための「刈羽学びの5か条」をもとに話を聞く子どもを育てる。  
小中の重点項目「はっきり話そう」の他に学級の課題項目と行動目標を決め、行動目標達成に向けた取組を行う。
- ・学年の実態に応じて、家庭学習の充実を図る。
- ・Web配信問題の、過去に弱かった単元等を把握して授業に臨む。
- ・実施後は振り返りを全体で共有し、個別指導などで補充する。
- ・国語・算数学年テストの実施などで基礎基本の確実な定着を図る。

## 成果と課題

### 〔成果〕

- ・夏季休業中に、互いの実践についてレポートを持ち寄り、情報交換をした。個人の授業改善に生かすことができるような内容もあり、短時間で充実した研修となった。
- ・「刈羽学びの5か条」について、全学級で話し合いをし、自学級の実態と課題を出し合い行動目標を話し合いで決めた。行動達成に向けて児童自らが意識した行動をするようになってきている。
- ・Web配信問題の課題となる点について話し合い、今後授業改善できると思われることを話し合う研修を設け、授業改善に生かしている。

### 〔今後の課題〕

- ・「刈羽学びの5か条」について各学級で取り組み、児童自らが考えた目標を達成させること。
- ・問題文を確実に読み取る指導、言葉と図、式などをつないで具体的に説明する力を付けること。

「授業改善のポイント 2016」に基づいて、「身に付けさせたい力」を意識し、日々の授業改善に取り組む。年1回以上、指導案を作成し、授業公開を行う。

### 〔取組事項〕

- ①自立した学びを目指した授業づくりの実践のために、以下の点を中心に指導案を作成し、授業改善に取り組む。6月から12月に全学級が授業公開を実施する。
  - ・「身に付けさせたい力」を意識した指導案作り（私の授業改善）
  - ・受動的な学びから能動的な学び（アクティブラーニング）を意識した授業づくり（児童の学ぶ意欲や主体性を高める工夫）
  - ・「個の学び」と「仲間とのかかわり」の視点を踏まえた、自分の考えを伝え合い共に学びの質を高めていく学習活動の工夫
- ②授業公開後は全体、または学年部で協議会を行い、外部指導者から指導いただき、今後の授業に役立てる。
- ③刈羽村指導主事による参観授業とご指導を生かした授業改善をしていく。
- ④学習指導改善調査の結果分析をもとにした授業改善を実施する。7月に結果を分析し、9月以降の授業で改善を図った。

## 成果と課題

### 〔成果〕

- ・アクティブラーニングを意識した授業づくりをそれぞれの学級で試行している。
- ・公開授業は学年部単位で行っている。国語と算数で2名、提案授業として全体公開を実施した。
- ・夏季休業中、学習指導改善調査の結果分析をし、研修を行った。授業改善できることを職員同士で話し合い、9月以降の授業に生かしている。

[今後の課題]

- ・児童が仲間とかかわりながら主体的に学んでいく学習指導の工夫。
- ・目的を明確にした学習指導の工夫。
- ・指導の積み重ねや毎時間のトレーニングを強化していくこと。

意欲をもち、自ら課題を見つけ、解決方法や表現方法を工夫したり、仲間とのかかわりの中で学びの質を高めていく姿

学校評価「児童のアンケート」で達成状況を見取る。

○意欲をもち、自ら課題を見付け、解決方法や表現方法を工夫する姿

- ・「国語と算数の勉強は分かった」と答える児童 90 %以上にする。
- ・学年× 10 分以上の家庭学習ができたと答える児童を 80 %以上にする。

○仲間とのかかわりの中で学びの質を高めていく姿

- ・自分の考えを周りの人に分かりやすく話したり書いたりすることができたと答える児童を 80 %以上にする。
- ・ペア・グループ学習で友達の考えを聞いて自分の考えがよりよくなったと感じた児童を 80 %以上にする。

[確認の手だて]

- ①学期ごとに、個々の振り返りやレポート等で成果と課題を共有する。
- ②「児童のアンケート」やテストの採点などにより達成状況を把握し、その後の改善につなげる。

### <児童の姿>

学校評価「児童のアンケート」の結果

○意欲をもち、自ら課題を見付け、解決方法や表現方法を工夫する姿

- ・「国語と算数の勉強は分かった」と答えた児童 90 %
- ・学年× 10 分以上の家庭学習ができたと答えた児童 86 %。

○仲間とのかかわりの中で学びの質を高めていく姿

- ・自分の考えを周りの人に分かりやすく話したり書いたりすることができたと答えた児童 84 %
- ・ペア・グループ学習で友達の考えを聞いて自分の考えがよりよくなったと感じた児童 86 %

全ての項目が、目標値に達することができている。また、アンケート結果から、「いつもできた」「できることが多かった」という項目を前年度と比較してみると、「いつもできた」という、より高い肯定的意見がどの項目もアップしていることが分かった。児童の意識の向上が伺える。今後もよりよい指導を継続していきたい。